

事業所名 小規模多機能居宅介護「笑楽日」・グループホーム「風楽里」

運営推進会議開催報告書

開催日時 令和4年3月14日（月）紙面での活動状況報告・意見、感想の聞き取り	
参加者	議題
利用者 2人	1 活動状況報告
利用者家族（風楽里） 1人	
〃（笑楽日） 1人	2 ご意見・ご感想
知見者 1人	
市職員 1人	3 12月の社内研修「虐待・身体拘束について」
地域包括支援センター 1人	開催の際に行った、{虐待の芽} チェックリスト集計
地域住民の代表者 1人	結果をご覧になってのご感想
事務局 3人	

1 活動状況報告

令和3年度、最後の運営推進会議でしたが、残念ながら、感染力の強い、オミクロン株の蔓延により書面開催とさせていただきます。

今年の冬は寒さが厳しく、心配しましたが、大きく体調を崩される方もおられず、静かな年末年始となりました。餅つきでは、ご家族と会食することも実現できました。

2 ご意見・ご感想

高齢者福祉課様 ボランティアの受け入れについて

ボランティアの方々はどのような活動をされましたか。また活動を受けて、利用者様からはどのような声が聞かれたか、教えて頂きたいです。

事務局

利用者様にお茶をお出ししたり、おやつ用の用意、食器洗いをしていただきました。コロナ禍もあり、隣に座ってお話することはできませんでしたが、利用者様からはどこから来たの？何歳？といったように会話したい気持ちが伝わってきました。

知見者様

12/23のボランティア3名の受け入れが目を引きました。餅つきも4家族が参加され、よかったですね。コロナワクチン接種も順調に進んだので、外出の機会も持てるようになるとよいですね。研修も充実していて素晴らしいと思います

事務局

餅つきは、コロナ禍の開催ということで、風楽里、笑楽日の方々、ご家族様と楽しみました。研修は年間計画を立てています。現場からの必要に応じた研修も行います。

地域の代表様

避難訓練はどのように行われたのでしょうか。コロナワクチンの副反応はありましたか。

事務局

避難訓練は夜間想定で行ったので、利用者様に、居室で横になって頂き、起こして、車いすに移乗して誘導するところから開始しています。スタッフ5名、ボランティア1名、利用者様17名が参加しています。実際、火災発生時の夜間は利用者様も少人数ですが、スタッフも2名なので、迅速な応援体制が必要です。反省でも課題として挙がっています。オンコール体制の確認もしていく予定です。

コロナワクチンの副反応は、利用者様は接種後3日後までチェックリストを作り、健康観察しました。幸い、重篤になる方は一人もおらず、スタッフは勤務表を考慮して作成しましたが、発熱で休む方が数名出ました。

地域包括支援センター中央東様

コロナ禍で感染対策を講じながら行事をされており、利用者様の楽しみを継続していく事はとても大切なことだと思います。

事務局

非接触、換気に留意し、参加人数も限定して行いました。

入居者家族様

感染防止に努めながら様々な行事を実施され、ありがとうございました。

利用者家族様

日々、利用者のお世話のほか、非常時の訓練や、誕生会、おやつ作り等、楽しみながら生活に変化を持たせる工夫がされており、職員の方の努力が伺えます。

入居者様

みんなが無事に健康で年を越せました。

利用者様

これからも楽しみにしています。

事務局

職員も一緒に楽しんでいます。

3 12月の社内研修「虐待・身体拘束について」

地域包括支援センター中央東様

アンケートの15番目～他の職員が行っているサービス提供・ケアに問題があると感じることがある～と答えた人が20人中10人いたことについて～問題があると感じているが、その問題の行動を、スタッフ間でどうしていくのか定期的に話し合えると良いのかなと感じました。

知見者様

多くの項目で「見た・聞いた」の数より「している」の数の上回っているのは、している人が〔自覚できている〕という意味で、改善の可能性が高いと感じました。ただ、8番目の～利用者の呼びかけや、コールを無視したり、意見や訴えに否定的な態度をとったりしていませんか～の問いについてはそれが逆転しているので、ここは社内で掘り下げてみるのも良いところではないかと感じました。二つの問いが混在しているので、見た、聞いた人は{誰か}{誰を}という部分は言わず、どのような状況を見たのか、聞いたのかを詳らかにしていけると良いと思いました。

地域の代表

10番目から、15番目の項目内容が気になりました。

利用者・入居者家族

チェック項目に対して、“している”が意外に多いと思いました。但し、このことは、外から見て、必ずしも、マイナスイメージとは思いません。人と人との関りは、研修だけで解決できるものではなく、職員さんの年齢、経験、また利用者が長期になれば、その人との距離感、相性等々、様々な要素が、自然な振舞いの中で、見えたりすると思います。チェック項目15番で問題意識を持っている人が多く見えるということは、ちょっとした話し合いで、より良い方向に行くのではないのでしょうか。

“している”に正直に答えた職員が、数人あり、逆に数字を正しく反映されていることを理解しました。少しずつ改善されていけばいいと、思います。

事務局

(財)東京福祉保健財団高齢者権利擁護支援センター作成のチェックシートを参考にしました。まだ、職員との振り返りや意見交換の時間が取れていませんので、機会を設ける予定です。委員の方々の、真摯で深い考察にとっても感謝しております。頂いたご意見は職員全員で共有させていただきます。ありがとうございました。

以上、令和3年度 第6回 運営推進会議の開催報告書とさせていただきます。

伊丹